

科目名・単位数	財務会計Ⅱ 2単位	科目分類	財務会計系	基本科目
配当年次	1年次・秋学期・昼・夜	担当教員	ふるいち ゆういちろう	
履修形態	選択必修		古市 雄一朗	
授業概要	財務会計Ⅰに続き財務会計について制度的な話題のみではなくその背景にある会計理論の理解に重きを充てる。財務会計Ⅰにおいては主に個別論点を取りあげる。			
到達目標	会計理論の分析			
授業方法	教材および補助資料を使用して進行する。			
事前・事後学習	各回の範囲の予習（120分） 問題演習（120分）			
成績評価の方法	期末にレポートを課す			
フィードバックの方法	講義内における解説、質疑応答、確認テストおよびその解説を通して行う			
履修上の注意	中級程度（日商簿記検定2級程度）の簿記知識を有していること。			
授 業 計 画				
第1回	金融資産・金融負債の範囲について整理を行い、資産・負債の評価の測定とその評価差額の取扱いについての基本的な論点の整理を行う。それらの取引が簿記の諸要素の中の結合関係からどのように理解できるかについて検討を行う。 (復習：講義内での議論の論点整理 各90分)			
第2回	金融資産・金融負債の貸借対象評価額の測定について、有価証券の分類およびそれぞれの貸借対照表価格に用いる測定値と評価差額の取扱いについて整理を行う。上記に付随する有価証券の減損や償却原価法の考え方について取り扱う。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)			
第3回	デリバティブ取引に関わる、簿記について検討を行う。先物取引、先渡取引、オプション取引、スワップ取引及びこれに類似する取引についてその処理の理論的背景および評価差額の取扱いについて勘定科目の性質に注目し、議論を深める。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)			
第4回	ヘッジ会計について検討を行う。ヘッジ取引のうち一定の要件を満たすものについて、ヘッジ対象に係る損益とヘッジ手段に係る損益を同一の会計期間に認識することでヘッジの効果がどのように反映されるかについて議論を深める。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)			
第5回	払込資本を増加させる可能性のある部分を含む複合金融商品について扱う。具体的には、転換社債型新株予約権付社債やその他の新株予約権付社債に係る会計処理および簿記記録の方法について検討を行い、議論を深める。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)			
第6回	外貨建て取引の範囲について概観し、外貨建て取引における、取引日レートを用いる場合、デリバティブ取引についてヘッジ会計の適用を認める場合および特例としての振当処理が行われる場合の区分について簿記処理を確認する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)			

第7回	<p>外貨表示財務諸表の換算について、在外支店における換算の方法について検討を行う。なお、在外子会社の換算については、他の関連科目において取扱う、また評価換算差額の一項目である、為替換算調整勘定についても同様である。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第8回	<p>個別貸借対照表における退職給付債務の計算方法およびその表示の考え方について取扱い、検討を行う。退職給付費用の計算要素について確認し、退職給付会計に関する議論を概観し、その内容を検討する。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第9回	<p>連結財務諸表における退職給付債務の計算方法およびその表示の考え方について取扱い、検討を行う。その際に、包括利益計算におけるその他の包括利益について触れ、資産・負債の評価差額の取扱いの意義についても検討を行う。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第10回	<p>数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理について検討を行う。これらの差異について遅延認識と即時認識という考え方の意義をそれぞれ検討する。議論の内容を深めるために国際会計基準における処理を参考に検討を行う。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第11回	<p>リース取引について概観し、ファイナンスリース取引およびオペレーティングリース取引の異同とそれぞれの要件、識別基準について検討を行い、リース会計の議論の基礎とする。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第12回	<p>所有権移転ファイナンスリース取引および所有権移転外ファイナンスリース取引における、レッサーとレシーのそれぞれの会計処理の方法について検討を行う。</p> <p>レシーについては、取得原価の決定と減価償却に特に重点を置いて検討する。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第13回	<p>セール・アンド・リースバック取引における借手および貸手の処理について取扱う。ファイナンスリース取引物件の売却損益は、通常、長期前払費用または長期前受収益として繰延処理されるがその会計的な意義について検討を行う。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第14回	<p>減損会計の意義について扱い、減損の兆候の判定、減損損失の認識、減損損失の測定という一連のプロセスについて確認する。また、割引キャッシュフローの考え方を確認し、割引現在価値計算の考え方について検討を加える。</p> <p>(予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)</p>
第15回	<p>有形固定資産および無形固定資産の減損および共有資産の減損の場合における一連の手続きについて検討を行う、のれんの減損については、その償却と併せて多くの議論が行われているので制度比較を通して検討を行う。</p> <p>(復習：レポート作成)</p>
テキスト	伊藤邦雄『新・現代会計入門第4版』日本経済新聞社※必ず最新版を準備すること
参考図書	授業内で指示する。